

平成 25 年度事業報告

平成 25 年度泰山荘入所者数は定員 600 名のところ 562 名でありました。

介護保険制度が開始され既に 14 年が経過する中で軽費老人ホームのあるべき姿と現実とのギャップに負担を感じながら推移した年でありました。毎年の課題でもあります入所者の重度化問題によって外部サービス（デイサービス、訪問介護）の利用者が増え、荘内でも食事の配膳を工夫するなど、現状に合ったサービスの提供を心掛けて運営しております。また、夫婦部屋の空きが続いており、空きを無くす為に個室への工事を大々的に行いました。その工事期間は、工事部屋すべて空き部屋になりますので、例年より入所者数が大幅に減少しました。

また、それぞれの老人には価値観の相違があるため、より多くの行事を地道に提供し自分にあったものをその中から選択してもらう事により対処していくことが現状では最善の策と考えております。行事やクラブの内容を見直し、新規の活動を考えて行き、一人でも多くの老人さんが参加し、楽しく過ごせるようにするのが現在の課題です。

一方肉体的処遇面では身体機能低下等顕著に見られるようになり今後の処遇に対応しきれない事態がより現実のものとなってきており大いに懸念されるところであります。

（要支援を含む介護認定者が過半数を超える状況）

25 年度の退所者数は 12 名となりましたが、そのうち 9 名が精神面或いは肉体面での機能低下により当施設での自立生活の維持が不相当と判断された為施設替えとなった状況であり、重度化の確実な進行を改めて認識させられた形となってしまいました。

このような状況に加えて入所者の多くは「出来ればここで終末を迎えたい」という声が聞かれるなか、現状の職員配置体制下でこれまで以上の介護的な（要介護認定者）処遇を主要な業務として継続して実施することは大変困難なことであります。入荘者に対しての職員の数が少ない為、職員の負担も年々増しているのが現状です。

個人の自由意志を尊重することを前提とした軽費老人ホームにあってはあくまでも老人一人ひとりの自覚に委ねなければなりません。健常者には適切な指導や助言により「自分の健康は自分で守る」というような自立意識を啓蒙し、要介護者には心情的に複雑な気持ちが交錯するものの現実的な対処法として施設介助だけでは補えない部分を一時入院や介護保険サービスの様々なメニュー（デイサービス、家事援助、福祉機器利用）の活用等により対処し、利用者にとって「何が最善の方法なのか」を本人（又は保証人）と検討しながら 26 年度の事業計画の遂行に生かす所存であります。

1 入 所 10 名 (家庭より 7 名、施設より 3 名)

退 所 12 名 (施設替 9 名、家庭へ 1 名)

2 階層別・出身地別状況 (26, 4, 1 現在)

対象収入による区分		1 階層	3 4 名
		2 階層	2 名
		3 階層	6 名
		4 階層	1 名
		5 階層	3 名
		7・9 階層	各 1 名

	男	女		男	女		男	女
松阪市	7	27	多気郡		1	伊 賀	1	
伊勢市		2	度会郡	2	2	県 外	1	
津 市	3	0	志摩市		2	合 計	14	34

3. 介護認定状況

要支援 1	5 名	要介護 1	9 名
要支援 2	2 名	要介護 2	10 名
		要介護 3	3 名

4. 主な施設行事

4 月	観 桜 会	10 月	運 動 会
5 月	ゲートボール大会	11 月	文 化 祭
6 月	日帰り旅行 花菖蒲見学	12 月	餅つき大会 クリスマス会
7 月	夕 食 会 健康診断	1 月	初 詣 新 年 会
8 月	創立記念行事 納涼盆踊り大会	2 月	節分行事
9 月	敬老行事	3 月	彼岸回向

定 例 行 事

血压体重測定	嘱託医健康相談	避難訓練 (年 4 回)
懇 話 会	供養塔清掃	ビデオ上映会
買物の日	生活点検	誕 生 会 荘内清掃

慰問・地域交流

鎌田幼稚園	七 夕 、 敬 老 慰 問、運動会
第 4 小学校	文化祭 、 節 分 、 卒園記念慰問
港小学校	ゲーム等交流慰問
英幸会ほか	野菜、花等の寄贈
松阪ハーモニック	舞 踊、歌、楽器
ジュニアバンド	金管バンド慰問